

浦戸湾海上ネットワークの船着場のデザイン

1090493 村上吉正 重山研究室

背景

高知県にはたくさんの観光資源がある。高知市中心には高知城、日曜市、ひろめ市場、はりやま橋、帯屋町などがあり、桂浜周辺には坂本龍馬記念館、闘犬センター、坂本龍馬銅像などがある。しかしそれらは、基軸となるコンセプトが希薄であるため各観光資源のつながりが弱い。そこで観光資源の基軸となるコンセプトの確立が必要と考える。

全体ルートマップ



観光の軸

観光地の発展は観光の対象となる観光資源、観光対象施設のいかによって左右される。個々の観光資源で成り立つことも可能であるが、明確なテーマを持ち、個々の観光資源が繋がることにより、より多くの観光客が期待される。

ところで明治時代、土佐藩は夕顔丸や乙女丸など数多くの帆船を所有していた。また土佐には坂本龍馬をはじめ数多くの明治維新の礎を築いた人、活躍したひとがいる。よって今回は明治維新をテーマとする海上ネットワークをつくりそれを観光の軸とすることを提案する。



写真①龍馬記念館

海上ネットワーク

左の図より、赤でしめすものは観光スポットだ。明治に活躍した人の遺跡や施設を表す。青の線が海上ネットワークを示し、青の四角が船着場を表す。場所は南から順に桂浜、種崎千松公園、長浜渡船船着場、高知港、弘化台の5つに設置する。また上町付近に龍馬の施設が多いため、弘化台から鏡川を上り、土佐山内宝物館まで行けるようにする。堀川を上り、カルポートまで行けるようにもする。船着場は緑で表す。帆船は喫水の関係で⑤に浮かべることにする。港には3隻浮かべ、船内はレストランなどに利用する。船は右の写真にあるような遊覧船を使う。各船着場を時計回り順に回っていく。運行時間外は左の図停留所に留めておく。また、ルートに合わせてバス路線を敷く。左の線がそれを示す。船着場から各観光スポットまでは、バスで向かう。オレンジで示すものはバス停である。



写真②HP NPO 法人 きらり こうち 都市づくりより遊覧船きらり

現況調査

各船着場を代表して、桂浜での設計を行った。桂浜は高知の観光資源の一つであり多く観光客が訪れる。右にあるパノラマ①の駐車場はイベント時以外ではあまり使われていない。設計する場所を赤の丸で示す位置とする。



現況写真パノラマ① 敷地を南から北に向けて眺めた様子。

パノラマ②は堤防から眺めた様子である。堤防からは千松公園や浦戸大橋を眺められる。堤防の高さは1.5m程度の堤防があり、堤防の幅も広く、1.5m程度、海面からは1.5～2mである。



現況写真パノラマ② 堤防の上から撮影したもの。千松公園が見える。堤防の幅はかなり広い。

パノラマ③は①、②とは逆の南側のパノラマである。桂浜のお土産売り場が見える。奥に進む道をいくと、坂本龍馬銅像や闘犬センターに向かうことができる。



現況写真パノラマ③ 敷地を北から南に向けて撮影した。土産物売り場が見える。奥に進む道は坂本龍馬銅像や闘犬センターに向かうことができる。

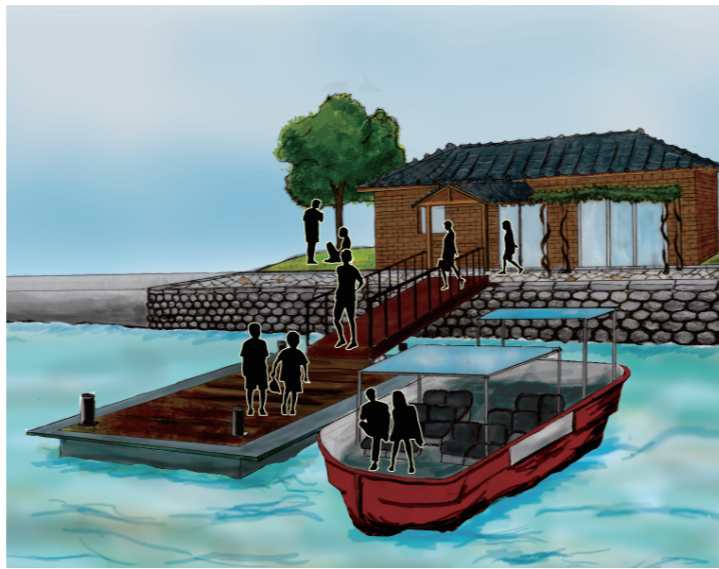
桂浜の浮き棧橋

船着場は明治の偉人たちのゆかりの地を訪れるためのはじまりの場所として、それを感じさせるために明治時代をイメージしたデザインにした。休憩所の外壁はレンガ、屋根は木造の瓦葺きできている。外は石畳を使い、護岸は石積みにした。浮き棧橋は、木材を組んで鋼材で囲んだものを浮かべてある。

建物は元々ある防波堤に合わせた高さにし、そこからなだらかな芝生の斜面をつくり、そこには高木を植えた。階段の横にスロープも設け、身障者がいる場合でも登れるようにしている。中央に屋根付きの通路が南北に伸びる。北側は浮き棧橋に、南側は闘犬センターや桂浜のお土産屋に向かっている。車が通る部分は屋根の高さを上げて通りやすくしている。西側に駐輪場を設けそこからいける通路も設けた。建物の中は休憩所とトイレで、休憩場所には4人がけの椅子とテーブル、カウンター型、そしてL字型の長椅子の3種類で訪れた人の状況に合わせて使えるようにしていた。15人程度が利用できる。

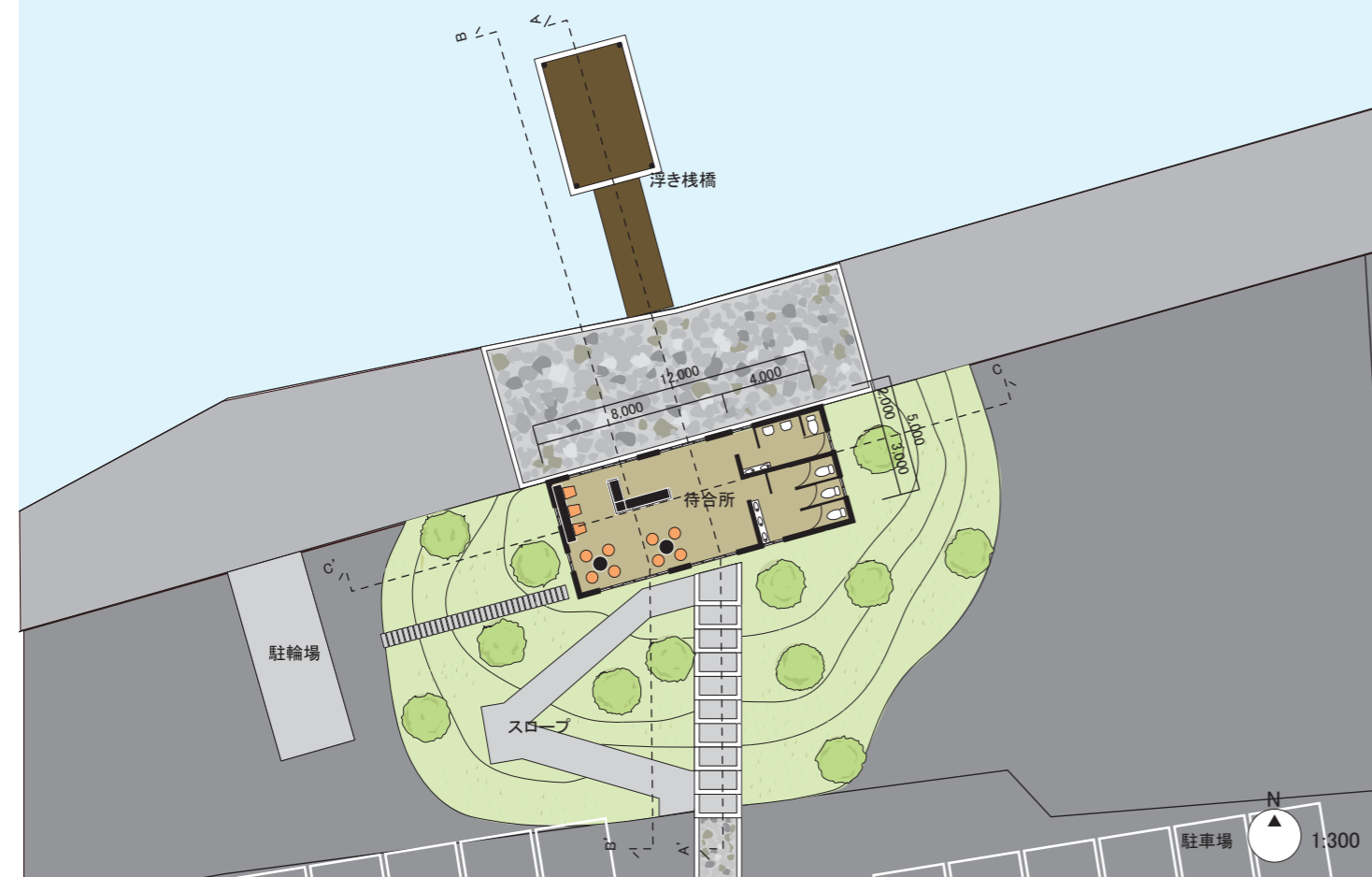


外観パース① 南側渡り廊下からの眺め

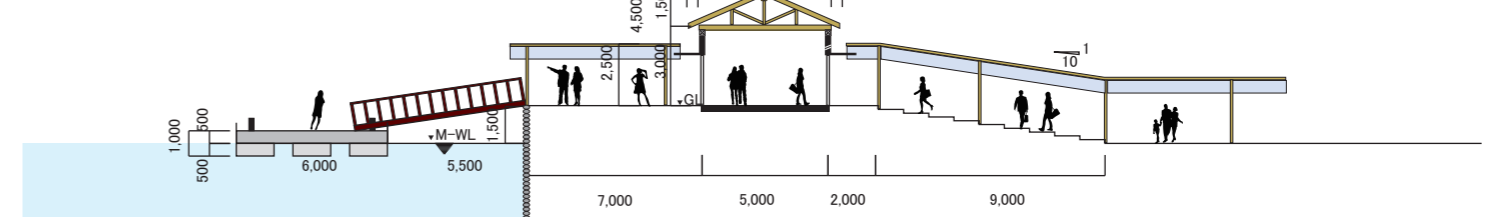


外観パース② 船着場の様子。浮き棧橋、石垣、レンガの建物が見える。

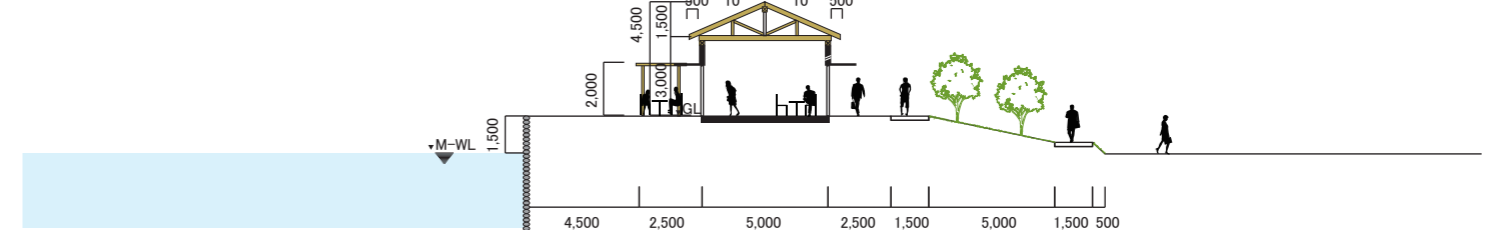
浮き棧橋平面図



A-A' 断面図



B-B' 断面図



C-C' 断面図

